

欧州旅覚え書き

広報委員会 副委員長 小野 真路

人類の創造するものは自然を超えてはいけない。

そう感じたのが今回の欧州旅であった。

私は2019年10月5日（土）から10月14日（月）までドイツ・スペイン・ポルトガルに訪れた。

200年を超える建築物が多く様々な刺激を得られた。

自然の木の大きさを超える木造の構造物。

自然の丘を超えるコンクリートの構造物。

自然の岩を超える鉄の構造物。

人類は常に自然と競い合い様々な構造物を創造してきた。

自然災害を含めた自然を経験し、それを理解し、挑戦を続けてきた。

美とは人類の積み上げてきた価値観であるが、自然を越えようとする挑戦は自然に対するものである。

そしてその挑戦こそ建築構造を考えることだと私は思う。

構造計画、構造設計、構造物の築造。

読者の多くはどこかで構造に関わる仕事を行なっておられると思うが、それは皆、自然に対する挑戦をしているのであろう。

人類の中で自然を最も理解し、それに対しあくなき挑戦を行い続けていきたいものだ。

自然は時に人類に対し多くのものを伝える。

それが人類にとっては脅威にもなり得る。

日本では地震や台風が最もイメージしやすい。

完全に自然をコントロールすることは人類には出来ない。

しかし、それを理解しようと挑戦を続けている。

建築分野のみならず、自然を理解しコントロールすることに人類は挑戦している。

人類だけでなくあまたの生物が様々な時代で自然に挑戦して衰退と繁栄を繰り返してきた。

人類は自然を超えられるか。

神は自然であり、人類が神というものの考え、それを通じて自然を人類に教えているのではないか。

自然を理解する為に構造を理解し、自然を超えない構造物を人類は創造しようと挑戦を続ける。

美という人類独特のスパイスを加えた構造物を作り上げるためのヒントが多く吸収できた機会を与えて頂いた場所であった。



サグラダファミリアでのガウディの設計中の模型

『フニクラ』



サグラダ・ファミリア（バルセロナ・スペイン）



芸術科学都市（バレンシア・スペイン）



ジェローニモス修道院（リスボン・ポルトガル）